

平成18年度 施策評価シート

総合計画における位置付け等

平成18年 月 日記入

基本目標	ゆとりある みどり豊かな環境共生都市をめざして	施策コード	21110
政策名(章)	第1章 人と自然にやさしい地域社会をつくります	評価担当部	環境保全部
基本施策名(節名)	第1節 地球環境の保全に向けた取り組み	評価担当課	環境対策課
施策名	総合的な環境施策の推進	課長名	森 多可示

1 施策の目的・概要(目的はわかりやすく記入)

複雑・多様化する環境問題への確に対応するため、環境保全活動や環境教育・環境学習の充実に努めるとともに、市民・事業者・行政が一体となって良好な環境の保全と創造に向けた総合的な施策を推進するもの。
平成13年3月に策定した「相模原市環境基本計画」に基づき「自然環境観察員制度」を創設し、市民自らが身近な動植物等について調査を実施し、環境保全意識の高揚を図るための事業を市民と行政との「協働」により実施しているほか、6月を「環境月間」とし、環境保全のための普及・啓発事業や環境保全団体との協働による普及・啓発事業などを実施。

2 事業費・人員

年度	平成14年度(決算)	平成17年度(決算)	増減の主な理由
事業費		19,563	環境情報センター関連事業及び街美化アダプト制度推進事業が新たに構成事務事業に加わったことによるもの。
人件費		23,828	
市民一人あたりの事業費	32	65	
合計	19,491	43,391	

*人件費は、一人あたり H14:839万円、H17:805万円として算定。人口は、61.6万人(H15.4.1現在) 66.7万人(H18.4.1現在)とした。

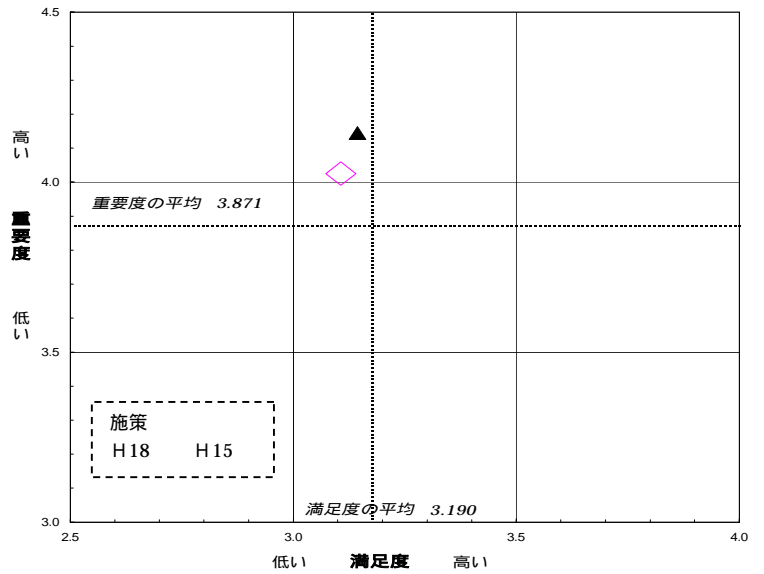
3 成果・活動指標

	指標名	指標の基準値の定義	基準値(単位)	基準年度
指標1	自然環境観察員登録数	(当該年度観察員登録者数÷目標登録者数100人)×100	91名 91%	H16
指標2	こどもエコクラブ登録数	(当該年度こどもエコクラブ登録数÷目標登録数50クラブ)×100	66クラブ 132%	H16
指標3	街美化アダプト制度団体と合意した箇所数の目標達成率	街美化アダプト制度導入初年度の団体との合意箇所数の目標達成率(15年度箇所数:423箇所/目標箇所数(合併後の想定自治会数)597箇所×100)	423箇所 70.9%	H15
指標4				
指標5				

	H17目標値/実績値	中間年度	中間年度の目標値	最終年度	最終年度の目標値	目標値の考え方(根拠)
指標1	100	109	100名(100%)	21	100名(100%)	相模原市自然環境観察員制度実施要綱における観察員定数に基づく。
達成率	109%	19				
指標2	50	15	50(100%)	21	50(100%)	環境基本計画に目標を提示。 毎年50以上の登録
達成率	30%	19				
指標3	80	73.4	537箇所(90.0%)	21	597箇所(100.0%)	1自治会あたり1箇所の街美化アダプト制度の合意が得られた場合を想定した合意箇所数
達成率	91.8%	19				
指標4						
達成率	#DIV/0!	%				
指標5						
達成率	#DIV/0!	%				

4 市民満足度調査結果(平成18年度実施分)

この施策の満足度は3.107で51施策の中で35番目。
 重要度は4.025で18番目である。
 改善要望度は0.1671で16番目である。
 年齢別にみると、満足度は60歳代以上で高く、20、40歳代で低くなっている。
 重要度は20歳代でもっとも高く、40歳代でもっとも低くなっている。
 前回調査と比較すると、満足度、重要度とも施策の順位が下がっている。
 満足度の順位では、40歳代で前回調査より上がり、20、30歳代、70歳以上で大幅に下がっている。
 重要度の順位では、70歳以上で前回調査より大幅に下がっている。



5 1次評価(3つの視点から評価を行う)

視点の種類	評価基準・着眼点	評価点	それぞれの視点に対して評価の具体的根拠	
有効性	各事業が果たす施策に対する目標の達成度合いを把握し、効果の高い事業を実施している	2 1	「自然環境観察員」については、目標を上回る109人の観察員が、身近な生きもの調査として、「タンポポ類の調査」をはじめとした7項目の調査を行った他、「かんきょう学習セミナー」や「リーダー講習会」を実施し、その結果を年次報告書として発行し、今後の施策の展開に役立つものとなっている。	
効率性	最少経費で最大効果が得られる事業構成となっている	4 1	環境情報センターの設置等により、投入コストは増加したが、環境情報センターにおける「エコネットの輪」事業により市民・事業者・行政が一体となって良好な環境の保全と創造に向けた取り組みを進める体制を整えることができた。また、街美化アダプト制度により市民が主体となった環境保全意識の高揚を図ることができた。また、「環境フォーラム」を見直し「環境まつり」として麻布大学を会場に学校・事業所・地域・行政のパートナーシップに基づく事業実施により、多くの市民等に対し環境保全意識の啓発を図ることができた。	
市民満足度	市民満足度調査により市民ニーズを把握し、市民の立場に立って事業展開している	4 1	地球の温暖化等により環境問題への関心は高く、重要度は高くなったが、市民に直結する事業が少ないこと等から満足度が低くなったものと考えられる。	
合計		8	評価結果に基づく区分(4項目の合計点数による) A(12から10点) B(9から5点) C(4点以下)	1次評価 B

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

6 課題と解決策(現状または、評価結果から)

課題	より多くの市民に対し環境保全意識の啓発を図るため、市民各層への事業参画を呼びかけるとともに、環境に対する関心が低い層も視野に入れた事業や市民ニーズにあった事業の展開を図る必要がある。
解決策	平成18年4月に開設した環境情報センターを活用し、環境教育・環境学習の場の拡充を図るとともに、多様な環境関連情報の提供等、事業の質的・量的向上、併せて各種媒体の積極的活用により、啓発活動の推進を図る。

7 2次評価及び意見(1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて意見を記入)

事業を推進したことにより得られる成果を表す指標の設定を検討する必要がある。 市民に対し、環境施策に関する情報提供等を十分に行い、環境保全に関する意識啓発及び各事業への理解と協力を求めていくべきである。	2次評価 B
---------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

8 3次評価及び意見(評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入)

	3次評価
--	------

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

